宮城学院女子大学後援会会報

MIYAGI GAKUIN SUPPOTERS REPORT

vol.5

対談

～大学と後援会の伝統を未来へつなぐ～

髙橋 博　後援会会長　×　平川 新　学　長

宮城学院女子大学の発展に向け 大学、後援会の立場でサポート

髙橋後援会会長（以下会長）：本後援会は、年に１回の総会や地区後援会の開催、学生の課外活動補助、大学祭等の大学行事の援助、奨学金の支援など様々な活動を行なっています。私はこれまで約３年間監事として携わっておりましたが、今年度から三井前会長の後を引き継いで会長を務めさせていただくことになりました。後援会の目的は、大学と家庭の連絡を密にし、大学の発展と学生の大学生活の向上に寄与することです。いかにして大学と学生・保護者が円滑に連携し、宮城学院の名を高めていくかが大切で、後援会は保護者の皆さまからご協力いただきました会費等を貴重な財源として活動しております。後援会は言わば大学と学生の応援団のようなものです。

平川学長（以下学長）：毎年内々定が出る8～9月頃にかけて、東北各県での地区後援会を開催いただいております。後援会の活動内容や大学の近況報告を行なうほか、各地区出身の在学生に就職活動の体験談を発表する場を設けていただき、保護者の方々からの関心も非常に高いようです。地区後援会は、普段お会いすることの少ない保護者の方々と近い距離で親しくお話ができる絶好の機会です。そこで「娘を宮城学院に入れて良かった」「姉妹で宮城学院に入れたい」と言っていただき嬉しく思うと同時に、期待に応えられるような魅力ある大学にしていかなければとあらためて思います。

会長：私の娘が音楽科を卒業してピアニストになり、現在は非常勤講師として大学にお世話になっています。娘は大学時代の友人と旅行をしたり、ミニコンサートを開いたり非常に仲が良いようです。また教える立場になっても学生時代から長く個別指導をしてくださる先生もいて、フレンドリーな良い大学だと実感しています。

学長：後援会は大学と保護者と学生を結ぶ関係にあり、総会等は後援会の主催行事として行なっていますが、大学が保護者に対して何かを行なうこととは違う形での情報提供、環境づくり、関係づくりを行なっていただいています。大学後援会には在学生の保護者の皆さまに入会いただいております。日常的には会長をはじめ役員の方々が携わっていますが、保護者の方々には「自分たちの組織」という意識があると思いますし、私自身も後援会の一員だとあらためて思います。

新学科から旅立ちをアピール ＩＴ時代に合う情報発信が課題

会長：これからの後援会の主な課題として、社会のニーズに合う情報発信の方法、後援会の参加率を上げること、後援会予算の有効活用といった３点があります。以前現代ビジネス学部の教授と話す機会があり、平川学長が就任されてから新しい学部・学科を設置したり、メディアへの出演が増えたりなど大学の改革が以前にも増しておこなわれていると伺いました。来年度は現代ビジネス学部の第１回目の卒業生が出るなかで、就職に限らず、現代ビジネス学科をどうアピールするか、学生たちが満足できる旅立ちをサポートできるかが課題となると思っています。最近では経団連の中西宏明会長が「就活ルールを廃止する」と発言されました。その後、当面は現行の日程を維持するとのことでしたが、将来的には現行のルールが廃止される見込みです。大学が主体になるかもしれませんが、後援会としても情報入手や提供、新しい就活ルールのサポート等ができればと思います。また、全体の総会や地区後援会に、より多くの保護者が参加していただける魅力ある会にしていきたいという課題もあります。歴史がある後援会で

裏面に続く ▶

すので、試行錯誤しながら改善を重ねていくことが大事だと考えています。

学長：私自身は、総会や地区後援会、保護者のための就職セミナーにしても、もっと多くの保護者の方にご参加いただきたいと思う一方で、参加率が高くないことはご息女を宮城学院に安心しておまかせいいただけている、という認識をお持ちの保護者の方が多いのかなとプラス思考で考えています。もちろんその信頼のなかで、時代に沿った様々なことに積極的に取り組む必要があります。今はインターネットの時代で、後援会は保護者に向けて大学の情報の発信について今後工夫を重ねていかなければならないですし、大学もさまざまなツールを使って学生の活動等の情報発信をしていく必要があると思っているところです。

女子教育に特化した先進性 女子大学ならではの魅力を強調

会長：常々学長がおっしゃっている「女子大学ならではの魅力」をさらに強調して、それが結果的に宮城学院女子大学に学生が多く集まる形につながっていければと思います。保護者の皆さまからご協力いただきました財源をもとに、後援会として、大学が手の届かないところに手をさしのべ、学生が大学生活を心からエンジョイしていただけるよう精一杯応援できればと思っております。

学長：明治以前、日本の女子教育は男子教育と比べて軽視されていました。そういう男尊女卑の時代に女子教養教育の普及を目的として宮城女学校が創立されました。その後学科を再編し、幅を広げ、現在に引き継がれています。宮城学院女子大学は、女性が自立して生きていく力・教養・専門的な学識を身に着けるための女子教育を提供してきました。それがいかに先進的な取り組みだったか、歴史を見るだけでも明らかです。男女共学校は現代社会の構造と同様、男性が中心となり、対して女性は遠慮してしまい、せっかくの学びのチャンスを逃してしまいがちです。一方女子大学は大学という限られた社会ではありますが、自分たちで自由に運営し、一人間としての主体性を築くことができる環境にあります。例えば学友会執行部の学生は、３千人以上の組織を動かし、行事を企画・運営し、社会の縮図を体験して責任感や主体性を身に着けていきます。企業の役員の方々と話をする時に、女子大学出身者は頑張っているね、という話になることも多くあります。

会長：女子大学ならではの良さもありますし、宮城学院のカラーというのもありますね。

学長：それもおおいにあると思います。以前タクシーを利用した際に、運転手さんから「宮城学院の学生さんは礼儀正しく対応が丁寧で感じがいい」と言われました。我々はそういう振る舞いを大事にしつつ、次の世代にも継承していかなければならないと思います。

会長：宮城学院の学生は、ひとことでいうと素直ですね。私自身もキリスト教学校出身ですが、知らず知らずキリスト教精神が身についているのかなと思うことはあります。

学長：週３回の礼拝では、聖書の言葉やキリスト教の隣人愛、平等の精神などを学びます。日常的にキリスト教の考えに触れることで、そういった考えが無意識のうちに根付いているのかもしれませんね。特にご年配のOGの方は、卒業して時間が経つほど母校のことを考えるようになり、折にふれて讃美歌や聖書の言葉を思い出すといいます。キリスト教学校であることの意味合いは相当あると思います。

大学開設70周年にむけて 保護者の皆さまに伝えたいこと

会長：大学生活の４年間は学業・スポーツ・アルバイトなどに一生懸命取り組み、仲間や教職員とのコミュニケーションを深め、後悔のない充実した学生生活を送って自らを磨いていただきたいと思います。それが卒業後の大きな糧になると思います。そのためのサポートを後援会は最大限行なっていきたいと考えています。

学長：宮城学院女子大学にご息女を入学させてくださった保護者の方の信頼に応え、良質な教育と環境を提供・維持していかなければなりません。卒業する時に「この大学で学生生活を送ることができて良かった」と、学生はもちろん保護者の方々にも思っていただける大学であり続けなければならないと思っております。また来年は大学開設70周年を迎えます。70年の歴史と伝統を守りながらも、保護者の方や学生のニーズに常に応えられるような大学にしていきたいと考えております。これからも保護者の皆さま、そして後援会にはさらなるご協力をお願いしたいと思います。

宮城学院女子大学後援会事務局（大学事務部教育研究支援グループ庶務担当内）
〒981-8557 仙台市青葉区桜ケ丘9-1-1
TEL 022-279-4698　FAX 022-279-7566　E-mail syomu@mgu.ac.jp.

2018年度後援会総会が開催されました

5月26日（土）本学を会場に、2018年度大学後援会総会が開催され、約300名の保護者の方々にご参加いただきました。大学後援会総会は、年一回保護者の方々と大学の関係を密にするために、様々な企画を行っております。

午前には、礼拝堂を会場に飯塚由美氏（本学オルガニスト）によるオルガン独奏、小畑実織さん（音楽科3年）と佐野奈菜さん（音楽科研究生1年）によるフルート演奏をお聴きいただきました。

昼食には、今年度も食品栄養学科平本ゼミの学生がプロデュースしたお弁当を用意し、ご好評いただきました。

その後の総会では、三井精一会長の議事進行のもと各議題（2017年度事業報告・収支決算報告、2018年度事業計画・収支予算、次期会長の推挙および役員の選任）を審議し、すべて承認されました。

なお、新会長にはこれまで監事を務めておりました髙橋博氏が選出されました。

総会後は、本学の学生生活およびキャリア支援体制報告、OGによる就職活動実体験報告、学科別クラス懇談、就職個別相談などを行いました。

当日アンケートにお寄せいただいた意見をもとに、来年度もご満足いただけるよう企画してまいりますので、ぜひお気軽にご参加ください。

音楽科によるミニコンサート

ミニコンサート

とても素敵な音色で感動しました！

三井会長による議事進行

総会

新会長挨拶

学長挨拶

卒業生の方々のお話が分かりやすく、親としても学びの多い内容でした。

学生部長による学生生活に関する報告

学生部報告

OGによる就職活動実体験報告

就職個別相談

レシピを教えてほしい！という声もたくさんいただきました。

昼食

学科別クラス懇談

先生方が親身にお話しくださり、いろいろな不安が小さくなりました。

地区後援会

今年度も宮城学院女子大学地区後援会を、東北地区の5会場（8/25盛岡市、8/26青森市、9/1山形市、9/2福島市、9/9秋田市）で開催しました。

地区後援会は、本学を会場に行われる後援会総会への出席が困難な県外にお住いの保護者の皆様と、地元で懇談を交えながら、大学の情報をできるだけ多く共有し、緊密な連携を保つことを目的に開催されています。

普段なかなか接することができない、同地区の保護者の方や本学教員と昼食を囲みながら情報交換を行っていただけるため、例年ご満足いただけたとの感想を多くいただいております。

当日は、第一部として大学後援会活動報告、大学の取組みや行事等の説明を交えた大学近況報告、本学のキャリア支援および就職状況の説明を行いました。

その後、各地区出身のジュニアアドバイザー（在学生）が、自身の学生生活や就職活動実体験などを発表しました。ジュニアアドバイザーの保護者の方からもお話をいただくことができ、有意義な時間となりました。

第二部では、「個別相談会」が行われ、学業や学生生活・就職など、保護者の皆様のさまざまな疑問や質問に、担当職員がお答えいたしました。

離れてお過ごしの保護者の方々の不安等が少しでも解消されたのであれば幸いです。

来年度も同時期に開催いたしますので、ぜひお近くの会場へお気軽にお越しください。

岩手地区

青森地区

山形地区

福島地区

秋田地区

より充実したキャンパスライフを支えるために 学びと暮らしに寄り添う学生生活センター

学生部長　厳　爽

「教室に忘れ物をしたけど、ここに届けられていますか？」、「奨学金の申請書類をください」、「大学祭の横断幕のデザインを見て欲しい」、「寮の掃除当番がうまくまわっていないけど、どうすればいいですか？」・・・昼休みや放課後、学生たちが入れ替わり立ち替わり学生生活センターにやってきます。そう、奨学金、学寮、学友会活動を軸に学生のキャンパスライフを支えている、ここ学生生活センターは学生のよろず相談所なのです。

東日本大震災以降、厳しい経済状況に陥りながらも勉学に励んでいる学生が増えています。今年度は特に奨学金の充実に注力しました。貸与奨学金の返済に苦しんでいる新社会人が社会問題になっているなか、2018年度より本学独自の奨学金を全て給付型奨学金に切り替えました。貸与型奨学金の廃止に伴い、家計急変や生活困窮度の高い学生を対象とした授業料減免制度も整備しました。

新たな取り組みとして、学業、課外活動、社会貢献、国際交流などにおいて優秀な成績を収めた学生を対象とした「学長賞」の新設が挙げられます。表彰式は「学友会総会」及び「学位記授与式（卒業式）」に合わせて執り行われます。早速、11月16日に開催された「学友会秋季総会」において、記念すべき第1回目の「学長賞」が平川新学長より3団体に対して授与されました。

経済的セーフティネットの整備、優秀な学生への表彰などを通して、学業に専念する学修環境を整え、社会に羽ばたく人材育成の下支えとなることが学生生活センターの役割であると考え、今後も教職員一同で学生サポートに邁進して参ります。

「学長賞」表彰式